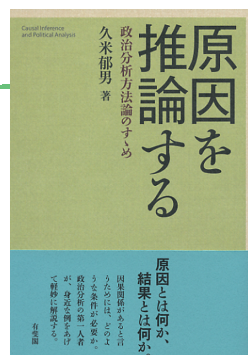


原因を推論する

——政治分析方法論のすゝめ

久米郁男

2013年11月刊／278頁／1890円(税込)
四六判／並製



編集 担当者 から

本書は、副題が示す通り実証的な政治分析方法論のテキストです。すなわち、第一の読者は何といても政治学を学ぶ学生さんです。しかしながら、本書の内容の多くは社会現象一般を説明する共通した方法について述べています。それゆえ、第二の読者は社会科学全般を学ぶ学生さんです。

本書は、世の中にはびこる印象論を排し、政治現象・社会現象をあくまで「実証的」に分析しようというもので、誤った因果関係推論の例などをあげながら、ある現象とある現象の間に因果関係があると言うためにはどういった条件が必要か、といったことを説明していきます。

本書が提示する方法論は、ビジネスの場でも活用することができます。たとえば、「ある商品が売れないのはなぜか？」という問いがあったときに、印象論ではなく実証的にその問いに答えることができれば、適切な対策を打つことができます。したがって第三の読者は、広い意味でのビジネスパーソンです。多くの人に手に取っていただきたい書籍です。本書を読んで、ぜひ実証分析の方法を身につけてください。(岡山)

Index

I

そのほか、より理解を深めるコラムが8つあり、充実した内容になっています。

序 章 説明という試み

第1章 説明の枠組み

——原因を明らかにする
とはどういうことか

第2章 科学の条件としての 反証可能性

——「何でも説明できる」っ
てダメですか？

第3章 観察，説明，理論

——固有名詞を捨てる意味

第4章 推論としての記述

第5章 共変関係を探る

——違いを知るとは
どういうことか

第6章 原因の時間的先行

——因果関係の向きを問う

第7章 他の変数の統制

——それは本当の
原因ですか？

第8章 分析の単位，

選択のバイアス，
観察のユニバース

第9章 比較事例研究の可能性

第10章 単一事例研究の用い方

終 章 政治学と方法論

ちょっと長い、少し個人的な、
あとがき